

【参考資料】蘇我護岸 修繕実施設計検討箇所まとめ

(1) 上部工法線コンクリート剥離及び鉄筋露出箇所

令和3年度に報告された護岸上部工法面の鉄筋露出劣化箇所について補修を検討する。

	護岸NO.	ブロックNO.	写真番号	R3状況
①	B2護岸	標準1-09	1-105	判定無し、鉄筋露出 0.4×0.6
②	C・D護岸	特殊4	4-01~4-03	b: 広範囲の鉄筋露出0.7×0.4
③	D護岸	標準4-01	4-23~4-25	b: 広範囲の鉄筋露出1.2×1.0
④	D護岸	標準4-01	4-26~4-28	b: 広範囲の鉄筋露出1.25×2.6
⑤	D・E1護岸	特殊5	5-4, 6	鉄筋露出0.2×0.2
⑥	D・E1護岸	特殊5	5-6	鉄筋露出0.25×0.2
⑦	D・E1護岸	特殊5	5-7	鉄筋露出0.3×0.3

(2) 上部工ひび割れ箇所

令和3年度に報告された全206か所（水叩き含む）のうち、報告書と現地踏査によりb判定の中で修繕が必要な箇所を選定する。（亀裂幅 $W \geq 3.0\text{mm}$ ）

	護岸NO.	ブロックNO.	写真番号	R3状況
⑧	取付・A護岸	標準1-03	1-23, 24	W=3.0mm、L=1.3m
⑨	A護岸	標準1-04	1-41, 42	W=3.0mm、L=6.0m
⑩	A・B1護岸	標準1-05	1-54	W=3.0mm、L=20.0m
⑪	B2護岸	標準1-08	1-88	W=3.0mm、L=20.0m
⑫	B2護岸	標準1-09	1-106~108	W=3.0mm、L=1.9m
⑬	B3護岸	標準1-15	1-178, 179	W=3.0mm、L=1.9m
⑭	B4・C護岸	標準2-02	2-32, 33, 37, 38	W=3.0mm、L=3.2m
⑮	C護岸	標準2-03	2-50, 53, 54	W=3.0mm、L=2.15m
⑯	C護岸	特殊3	3-1~4 3-10~13	当て鋼板の歪み、ボルト脱落。当該亀裂 個所の補修方法再考。
⑰	C護岸	特殊3	3-14	W=3.0mm、L記載なし
⑱	C護岸	標準3-01	3-19~22	W=3.0mm、L=2.0m
⑲	C護岸	標準3-02	3-40	W=3.0mm、L=1.7m
⑳	C護岸	標準3-03	3-57, 58, 63, 64	W=4.0mm、L=2.0m
㉑	D護岸	標準4-03	4-54, 57	W=5.0mm、L=4.1m
㉒	D・E1護岸	特殊5	5-1, 2, 8, 9	W=4.0mm、L=4.1m
㉓	E1護岸	標準5-02	5-37, 38, 40	W=5.0mm、L=2.0m
㉔	E2護岸	特殊6	6-3~6	W=5.0mm、L=2.0m

(3) E1護岸鋼管矢板ライニング破損

令和4年度にE1護岸のみ水中点検を実施したところ、鋼管矢板の保護カバーが2箇所破損していたためこれらの補修を検討する。

	護岸NO.	ブロックNO.	鋼管矢板NO.	R4確認状況
㉕	E1護岸	標準5-02	514	FRPカバー破損、600mm×900mm
㉖	E1護岸	標準5-02	516	FRPカバー破損、600mm×600mm

(4) E2護岸水叩き空洞復旧

令和4年度の外周道路（水叩き）空洞調査において、道路を横断するような帯状の空洞が1か所確認されたため、当該箇所の補修を検討する。

	護岸NO.	ブロックNO.	R4確認状況
㉗	E2護岸	特殊6	スコープ調査で空洞確認

※1 現地踏査は地上点検による。

海上点検は、剥離の寸法、ひび割れの幅・長さ等を詳細に測定できないので実施しない。

また、橋梁点検車による上部工法線確認も実施しない前提とする（空洞調査による安全確認ができていないため）。各報告書の情報と現地踏査による補足確認により修繕箇所の基礎情報をまとめる。